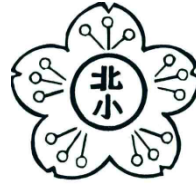


北小物語2018



平成30年 7月 2日
平戸市立田平北小学校
学校便りNo. (28)
校長 曾川 和則

◇◇◇ 『いい顔』『いい声』『いい心』 たゆみなく流れて清き「わが田平北小」 ◇◇◇

学校教育目標：「進んで学び、心豊かで、心身ともにたくましい児童の育成をめざす」

☆☆☆ 第28話：『いのちを語る』『いのちを学ぶ』～北っ子の心に届ける「いのち」の授業！～の巻 ☆☆☆



『いのちを語る』『いのちを学ぶ』

北っ子の心に届ける「いのち」の授業

「辛い」という字がある。もう少しで「幸せ」になれそうな字である。と子どもたちに語ったのは、5年：木場学級、「命かがやく」の道徳授業でした。中学校の体育教師時代、大けがを負い、手足の自由を失った星野富弘さん。諦めずに与えられた「いのち」を輝かせながら生きる、その姿、その生き方を



子どもたちと追い求めた木場教諭が、5年生の子どもたちの心に届けた「いのち」「生きる」のメッセージです。6月28日(木)、『北っ子の心を見つめる教育週間』の中で、全校道徳授業(一部音楽授業)を公開し、保護者の方はじめ地域の方々に、子どもたちの学ぶ姿を見ていただきました。新しい教育の流れの中で、子どもの心の力を高める道徳は、国語や算数と並んで教科となり、「対話や討論」を重視した「考える道徳」の授業づくりが求められています。



1年生では、「おかあさん」「赤ちゃん」をキーワードに「家族」のつながりと大切さを考え、2年生では、やなせたかしさん作詞「手のひらを太陽に」を取り上げ、「生きているから・・・できること、感じること」を話し合いました。3年生では、「いのちのバトン」「お父さんからの手紙」を題材に、果てしない命のつながり、家族の温かさを見つめ合い、集団意識が高まる4年生では「友情」や「家族愛」をテーマに人と人との絆について語り合いました。「お金では買えない大切なもの」を出し合うことから授業を始めた6年生は、奇跡的に生まれた「かけがえのない命」についての考えを深め合いました。



なかよし・たいよう・たんぼぼ学級の子どもたちは、「幸せなら手をたたこう」の歌に声と心を乗せ、お互いに入れ合える喜びを体いっぱい使って感じ合いました。



これからも、教科：道徳の授業を大切にしながら、北っ子の「いい顔」「いい声」「いい心」を高めていきます。

